

目次	ページ
防災教育指導要領	109
防災教育年間計画（令和4年度）	110
教科等横断的な防災教育の取組について	112
1 学年	112
2 学年	114
3 学年	116
具体的な指導事例（学習指導案）	118
全学年 総学 通学路での避難行動を考えよう	118
全学年 総学 「命を守るプロジェクト」 避難にかかる時間を考えよう	119
全学年 総学 津波対応避難訓練・地域学校協働防災訓練の準備をしよう	120
2 学年 特別活動 私は大丈夫 ～そんな気持ちはないですか	121
3 学年 外国語（英語） 通学路での避難行動を考えよう	122
外部専門家の活用について	123
防災学習 「三陸大津波記念碑見学」 講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏	123
防災学習 「スクール DIG」 による防災訓練の振り返り 講師 日本赤十字社青森県支部 事業推進課長 山野内 博見 氏	124
地域と連携した防災訓練について	125
地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）	132
防災学習・避難訓練等の記録	134
令和3年度	134
令和4年度	135
令和5年度（計画）	136

1 防災教育の目標

◎平時における「防災・減災」、災害時における「災害対応」

- ①災害発生メカニズムや地域に起こりうる災害について理解し、災害時に危険を予測し安全を確保することができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。(知識及び技能、関心)
- ②災害における危険を認識し、意思決定や行動選択についての確に思考・判断し、主体的に行動できるようにする。(思考力、判断力、表現力等、主体的行動)
- ③平時から、自ら進んで他者や地域の力と関わり、助け合い、支え合うことを通して、災害発生時などに人として取るべき行動の根底となる思いやりや感謝の心、態度を育む。(学びに向かう力、人間性等、社会貢献)

2 重点的に育成を目指す資質・能力

- ア 災害に備え、知識・技能を身に付け、防災・減災に自分事として取り組もうとする力
- イ 冷静に判断し、自らの命を守り、臨機応変に自らの安全を確保する力
- ウ 自ら進んで他者や地域の力となり、災害時の対応や地域に協力し参画する力

3 各学年における防災教育の目標

	知識・技能・関心	思考力・判断力 ・主体的行動	学びに向かう力・人間性 ・社会貢献
1 学 年	・自然災害について知るとともに、地域の状況を捉えることによって、災害の備えについて考え、防災意識の向上を図る。	・災害に対して適切な行動ができる。	・身近なボランティア活動に気づき、自主的に取り組もうとする。
2 学 年	・応急手当の技能を身に付ける。 ・地域の災害特性に気付くとともに、先人の被害への備えなどを調べ、地域における防災体制を考える。	・防災に関する日常の備えを見直す。	・自己の安全ばかりでなく、他の人々の安全にも配慮できる。
3 学 年	・地震のメカニズムを理解し、安全で快適な町づくりをするために必要な環境整備について関心をもつ。	・災害等の非常時にも、地域社会の一員として、自主的に地域の方々と協働できる。	・災害時における学校が果たす役割について理解し、学校と地域の人々とのつながりについて考える。

防災教育年間計画（令和4年度）

目標

(1) 災害発生メカニズムや地域に起こりうる災害について理解し、災害時に危険を予測し安全を確保することができるとともに、日常的な備えができる。

月	防災教育関連行事	教科
4	新入生ガイダンス [防災消防クラブオリエンテーション] [あおもりおもりノート贈呈] 避難行動オリエンテーション 避難訓練①（火災） [引渡集合訓練・防災リュック整備] 春の火災予防運動 小中合同引渡集合訓練	国・(1年) 情報を的確に聞き取る、情報を集めよう、情報を読み取ろう、情報を引用しよう (2年) 多様な方法で情報を集めよう、メディアの特徴を生かして情報を集めよう (3年) 評価しながら聞く、情報の信頼性 社・(2年) 地域調査の手法、日本の地域的特色と地域区分、日本の諸地域 (3年) 現代社会の特色と私たち 数・(1年) 正負の数「符号の付いた数」 (2年) 連立方程式「連立方程式の利用」 理・(1年) 動植物の分類「身近な生物の観察」、身のまわりの物質「物質に分類」 (2年) 化学変化と原子・分子 美・(2年) ポスターを作ろう 技・(1年) 木材と加工の技術「地震に耐える構造」、「未来に受け継ぐ熊本城天守閣のために」
5		家・(1年) 災害に備えた住まい方について考えよう、防災リュック 外・(1年) Let's Talk 1 ホテルでのトラブル (2年) Let's Talk 2 ていねいなお願い、Unit4 Be Prepared and Work Together (3年) ラジオの災害情報、町中での手助け
6		
7		
8		国・(1年) 聞き上手になろう、話題や展開を捉えて話し合おう (2年) 聞き上手になろう (3年) 聞き上手になろう、合意形成に向けて話し合おう 社・(2年) 日本の諸地域、地域の在り方 数・(1年) 一次方程式「一次方程式の利用」、比例と反比例「待ち時間を予想しよう」、「比例のグラフの利用」 (2年) 一次関数「一次関数と見なすこと」 (3年) 相似な図形「相似の利用」、三平方の定理「三平方の定理の利用」
9		理・(2年) 電流とそのはたらき「電流の正体」 美・(2年) ポスターを作ろう 保・(2年) 自然災害によるけがの防止 技・(2年) エネルギー変換の技術「災害時の電気事故の防止」、「防災ライトの設計・製作」、「災害のときに役立つロボットの設計・製作」、「福島ロボットテストフィールド」、「復興のために技術が果たす役割」 (3年) 情報の技術「自然災害の被害に備える情報の技術」
10	避難訓練②（地震・津波） 地域学校協働防災訓練 秋の火災予防運動 ショート避難訓練（不審者）	家・(3年) 地域の人と関わることの大切さ 外・(1年) Unit 9 Think Globally Act Locally、Let's Talk 1 お願い、Let's Talk 2 体調
11		
12	ショート避難訓練 (J-アラート)	
1	避難訓練③（冬季津波） 避難訓練④（地震・火災）	数・(1年) データの分析と活用「ことがらの起こりやすさ」 理・(1年) 大地の活動「火山」、「地震」、地層 (2年) 天気とその変化「日本の天気」 美・(1年) ピクトグラムを作ろう 保・(2年) 災害と環境 外・(2年) Stage Activity 3 My Favorite Place in our Town
2		
3		

- (2) 災害における危険を認識し、意思決定や行動選択についての確に思考・判断し、主体的に行動できる。
- (3) 平時から、進んで他者や地域の力と関わり、助け合い、支え合うことを通して、災害発生時などに人として取るべき行動の根底となる思いやりや感謝の心、態度を育む。

月	特別の教科 道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	(1年) C-(16) No. 壊れた掲示板 (3年) B-(6) ありがとうの不思議な力		
5			「命を守ること～防災」
6			「命を守ること～防災」
7			「命を守ること～防災」
8	(2年) C-(15) 未来に響け“復興和太鼓”		「命を守ること～防災」 3学年 職場体験学習
9			「命を守ること～防災」
10			「命を守ること～防災」 防災消防クラブ活動報告（三中祭） 1学年 農業体験学習 2学年 修学旅行
11			「命を守ること～防災」 ・避難訓練②の振り返り
12			「命を守ること～防災」
1	(2年) A-(2) 私は大丈夫 ～そんな気持ちはないですか (3年) D-(22) 亡き母へのトランペット		「命を守ること～防災」 ・冬季津波対応避難の在り方
2			「命を守ること～防災」
3			「命を守ること～防災」

教科等横断的な防災教育の取組について

1 学年

学期	教科	単元名	防災の視点 (A)：防災教育の目標に準ずるもの (B)：防災に関する教材や題材を取り上げるもの (C)：防災に関連する活動を行うもの	あおり おまもり ノート	ICT 活用
1 学期	国語	情報を的確に聞き取る	(C) 自分たちの状況に合わせて、必要な情報を的確に聞き取ることができる。		
		情報を集めよう、情報を読み取ろう、情報を引用しよう	様々な方法で情報を集め、自分たちに必要な情報を取捨選択し、活用することができる。	p4、21、25 p28～39 p40	
	数学	正負の数 ～符号のついた数～	(A) 海拔を表す標識について確認することができる。	p5、27	
	理科	動植物の分類 1章 身近な生物の観察	野外観察活動において、アクシデントが起きないように準備、もしアクシデントがあったらどうするかを確認する。		
		身のまわりの物質 1章 物質に分類	ガスバーナーの使い方において、ガス器具の正しい使い方を学び、万一のガスもれ・やけどの時どうすればよいかを知る。		
	技術	木材と加工の技術	(B) ・地震に耐える構造 ・未来に受け継ぐ熊本城天守閣のために		
	家庭	住まいについて	(B) ・災害に備えた住まい方について考えよう。 ・防災リュック	p40	
	道徳	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	(A) No.10「壊れた掲示板」 《クローズアップ》 ・熊本城の復旧は明日への勇気	p32～39	
特別活動	健康と安全	(B) 避難所生活における安全や健康管理の心がけについて考えることができる。	p31、39		
2 学期	国語	聞き上手になろう	(C) 相手の状況や立場に合わせて、質問をし、話を引き出すことができる。		
		話題や展開を捉えて話し合おう	(C) 話題や展開を捉えながら充実した話し合いを行うことができる。	p11、19 p24、38、39	
	数学	一次方程式 ～一次方程式の利用～	(B) 津波避難を例に、速さ、時間、道のりに関する問題を作成することが可能である。	p5、16、17	パワーポイント (地理院地図)
		比例と反比例 ～待ち時間を予想しよう～	(B) 行列の待ち時間を予測することで、避難所における配給を受けるのにかかる時間やGSでの給油をするまでの待ち時間を予測することが可能である。	p30、31	
	比例と反比例 ～比例のグラフの利用～	(A) 2本の比例のグラフを読み取ることを通じて、P波とS波のグラフを読み取ることができ、震源地の場所や本震の到達予想時刻を求めることができる。	p5、16、17		

学期	教科	単元名	防災の視点 (A)：防災教育の目標に準ずるもの (B)：防災に関する教材や題材を取り上げるもの (C)：防災に関連する活動を行うもの	あおり おまもり ノート	ICT 活用
2 学期	英語	Unit 9 Think Globally Act Locally	(C) 世界の現状に目を向け、困窮する国を知ること、自分が他国のためにできることを考える。	p8、9 p22、23	
		Let's Talk 1 お願い	(B) お願いをする表現を身に付けることで、困難な場面での他者とのコミュニケーション力を育成する。	p28～31	
		Let's Talk 2 体調	(B) 体調をたずねたり、答えたりする表現を身に付けることで、非常時の他者とのコミュニケーション力を育成する。	p28～31	
	技術	エネルギー変換の技術	(B) <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の電気事故の防止 ・防災ライトの設計・製作 ・災害のときに役立つロボットの設計・製作 ・福島ロボットテストフィールド ・復興のために技術が果たす役割 		
	総学	防災学習 「津波対応避難を見直そう」	(A) 新津波浸水想定に対応できる避難行動を再考する。	p2～5	TVモニター (動画・写真視聴)
3 学期	数学	データの分析と活用 ～ことからの起こりやすさ～	(A) 降水確率や地震発生確率など、統計的確率を予測することができる。	p5	
	理科	大地の活動 1章 火山 3章 地震	(A) 火山・地震の実際の現象を知り、どんな備えが必要か考えさせる。	p80～85、 p91	
			(B) 火山・地震とプレートとの関係を理解し、プレート境界にある日本列島では頻繁に活動があることを知る。必ず備えが必要なことを実感させる。	p8～21	
		2章 地層	(C) 大地の活動によって現在の地形が形作られていることや海岸地形や段丘地形の実際を知り、三沢市の地形にも影響していることを学ぶ。		
	美術	ピクトグラムを作ろう	(B) 災害時に子供や外国人など、誰にでも必要な情報をわかりやすく伝えるピクトグラムを考える。	p36、37	

2 学年

学期	教科	単元名	防災の視点 (A)：防災教育の目標に準ずるもの (B)：防災に関する教材や題材を取り上げるもの (C)：防災に関連する活動を行うもの	あおもり おまもり ノート	ICT 活用
1 学期	国語	多様な方法で情報を集めよう	(C) 様々な方法で情報を集め、自分たちに必要な情報を取捨選択し、活用することができる。		
		メディアの特徴を生かして情報を集めよう	(C) 自分たちの状況に合わせて、必要な情報を適切なメディアを利用して集めることができる。		
	社会	地質調査の手法	(A) 身近な地域（学校周辺、居住地）の過去の自然災害を調べる。その自然災害に対して、どのように備えているかを調査する。ハザードマップと避難所の位置関係等から、防災に関する地域の課題を考える。	p5、 p38～39	
		日本の地域的特色と地域区分	(A) 自然災害と防災への取組について、日本全体の視野から捉える。その際、防災対策に留まらず、災害時の対応も考える。	p6～7	
			(B) 地形から見た日本の特色		
			(B) 自然災害と防災・減災への取り組み	p10～21	
		日本の諸地域	(B) 震災から命を守る	p10～21	
			(A) 自然災害に応じた防災対策が各地域の課題となることを考える。		
			(B) 九州地方をながめて		パワーポイント
			(B) 自然環境に適応する人々の工夫		
	数学	連立方程式～連立方程式の利用～	(B) 津波避難を例に、速さ、時間、道のりに関する問題を作成することが可能である。	p5、 p16～17	パワーポイント (地理院地図)
			理科	化学変化と原子・分子	(C) やけど・薬品による被害・ガラス器具によるケガを未然に防ぐために常に必要な心構えを考えさせる。
	英語	Let's Talk 1 ホテルでのトラブル	(B) トラブルを伝える表現を身に付けることで、災害時や避難先でのコミュニケーション力を育成する。	p28～31	
		Let's Talk 2 ていねいなお願い	(B) ていねいをお願いする表現を身に付けることで、災害時や避難所でのコミュニケーション力を育成する。	p28～31	
美術	ポスターを作ろう	(B) 災害時の行動の仕方や災害に対する備えの必要性などを呼びかけるポスターを作り、掲示する。	p36、37		
特別活動	健康と安全	(B) 避難所生活における安全や健康管理の心がけについて考えることができる。	p31、39		
2 学期	国語	聞き上手になろう	(C) 相手の状況や立場に合わせて、質問をし、話を引き出すことができる。		
	社会	日本の諸地域	(B) 過去の継承と未来に向けた社会づくり		
(B) 自然の制約に適応する人々の工夫					

学期	教科	単元名	防災の視点 (A)：防災教育の目標に準ずるもの (B)：防災に関する教材や題材を取り上げるもの (C)：防災に関連する活動を行うもの	あおり おもり ノート	ICT 活用
2 学期	数学	一次関数 ～一次関数とみなすこと～	(B) 時間と温度の数量関係から、保存した飲料や食べ物の温度変化を調べることで、避難先での食べ物の保存する際の参考資料とすることが可能である。	p30、31	
	理科	電流とそのはたらき 3章 電流の正体	(B) 放射線とその利用について知り、多量の放射線の危険性を理解する。	p9	
	保健 体育	「自然災害によるけがの防止」	(A) 自然災害の種類と避難行動の重要性を学ぶ。	p4～7	
		「自然災害によるけがの防止」	特集資料のページでは、地震、大雨・台風、竜巻、雷といった自然災害が発生した場合の避難の仕方を学ぶ。	p10～21	
		「自然災害によるけがの防止」	(C) 救命講習	p28、29	
	美術	ポスターを作ろう	(B) 災害時の行動の仕方や災害に対する備えの必要性などを呼びかけるポスターを作り、掲示する。	p36、37	
	道徳	C-(15) よりよい学校生活、 集団生活の充実	(A) No.26「未来に響け“復興和太鼓”」	p32～39	
総学	修学旅行	(A) ・防災施設を訪問・見学し、実際の地震や火災、暴風雨を体験することができる。 ・訪れた都市の災害の歴史や防災に関する対策について知ることができる。			
3 学期	社会	地域の在り方	(A) 防災に対する地域（三沢市、青森県）の実態を調査し、課題を見つける。そして、他の地域と比較したり、関連付けたりして、地域の在り方を考える。	p4～5	
	理科	天気と その変化 3章 日本 の天気	(B) 日本の四季の天気の特徴を理解し、気象現象が災害になり得ることを知る。	p18～21	
			特に台風・大雪について発生する仕組みを知り、青森県ではどちらにも備えが必要なことを理解する。		
			(A) 気象に関わる恵みがあると同時に、竜巻や集中豪雨といった災害があることを知る。		
	英語	Stage Activity 3 My Favorite Place in our Town	(C) 自身の街のよさに気づくことで、郷土を大切にすることを養う。	p4～7	
	保健 体育	「災害と環境」	(A) 被災地での健康問題とその対策。災害時のSNSは、デマや誤情報が広がるきっかけになることを示し、インターネット情報の正確性を判断するポイントを提示する。	p24～25	
	道徳	A-(2) 節度・節制	(A) No.34「私は大丈夫～そんな気持ちはないですか」 《クローズアップ》 ・熊本地震 被災地支援 SNSが威力 ・群青の絆	p32～39	
総学	防災学習「非常時の持ち出し品・日頃の備蓄」	(B) 道徳教材、青森県防災ハンドブック「あおりおもり手帳」、防災グッズ特集のニュース映像などを参考に、学校での防災リュックの中身を再考する。	p40	TVモニター (動画視聴) (タブレット 画面共有)	

3 学年

学期	教科	単元名	防災の視点	あおもり おまもり ノート	ICT 活用
			(A)：防災教育の目標に準ずるもの (B)：防災に関する教材や題材を取り上げるもの (C)：防災に関連する活動を行うもの		
1 学期	国語	評価しながら聞く	(C) 自分の考えと比較しながら、相手の意見が適切かどうか評価することができる。		
		情報の信頼性	自分が知り得た情報が正しいかどうか、メディアの特徴を踏まえて判断することができる。		
	社会	現代社会の特色と私たち	(A) 情報化について、災害時における防災情報の発信・活用を具体的に考える。	p21、25	
			(B) 「情報化 情報化が変える社会の仕組み」	p37	
			(B) 「持続可能な社会に向けて」	p8、9 p22、23	
	理科	生物どうしのつながり 3章 生態系	(C) 生態系はさまざまな生物や環境がつり合っ て成立していて、人間の過度な活動が悪影 響を与えることがあることを知る。		
		地球と宇宙 1章 太陽系と宇宙の広 がり	(C) 太陽系の中で地球だけが温度や水・大気 に恵まれた惑星であることを理解する。		
	英語	Unit4 Be Prepared and Work Together	(A) 災害についての知識を高める。外国人も含 めて人々が互いに助け合う大切さを知る。		
		ラジオの災害情報	(B) 災害についての英語ニュースを聞いて、災 害に関する英語表現を知る。		
		町中での手助け	(A) 困っている人を（英語で）助けられる技能・ 態度を身につける。	p37	
道徳	B-(6) 思いやり、感謝	(A) No.2 「ありがとうの不思議な力」	p32～39		
特別 活動	健康と安全	(B) 避難所生活における安全や健康管理の心が けについて考えることができる。	p31、39		
2 学期	国語	聞き上手になろう	(C) 相手の状況や立場に合わせて、質問をし、 話を引き出すことができる。		
		合意形成に向けて話し合 おう	立場や考え方の違いを認め、互いの考えを (C) 生かしながら、合意形成に向けて話し合 うことができる。		
	数学	関数 $y=ax^2$ ～いろいろな関数の利用～	(B) 津波避難を例に、速さ、時間、道のりに関 する問題を作成することが可能である。	p5、 p16～17	パワーポイント (地理院地図)
		三平方の定理 ～三平方の定理の利用～	水平距離と垂直距離を生かして、実際の避 (B) 難距離に関する問題を作成することが可能 である。	p27	パワーポイント (地理院地図)
技術	情報の技術	(A) 自然災害の被害に備える情報の技術	p24、25		

学期	教科	単元名	防災の視点	あおり おまもり ノート	ICT 活用
			(A)：防災教育の目標に準ずるもの (B)：防災に関する教材や題材を取り上げるもの (C)：防災に関連する活動を行うもの		
2 学期	家庭	地域社会と生活	(A) 地域の人と関わることの大切さ	p32～39	
	総学	職場体験学習	(A) 各企業における災害への対策を知ることができる。		
		防災学習「地域学校協働防災訓練に向けて」	津波対応避難訓練及び地域学校協働防災訓練においてリーダーシップを発揮するための準備をする。		
3 学期	理科	自然・科学技術と人間	(A) 地域の自然災害について知り、自然と人間の関わり方について認識する。また、環境保全の大切さやSDGsについて理解する。	p18～23	
			(B) 放射線の人体への影響を知り、科学的に認識する態度を身につける。	p8～9	
	道徳	D-(22)よりよく生きる喜び	(A) No.35「亡き母へのトランペット」	p32～39	
	特別活動	受検期の生活と健康	(B) その時の状況に応じて、健康に過ごすために必要なことを考えることができる。	p40	

具体的な指導事例

学習指導案

学 年	全学年（一斉）	
教科名	総合的な学習の時間	
単元名	通学路での避難行動を考えよう	
指導計画 (全3時間)	1	三沢市の過去の津波災害を知る
	2	地理院地図の活用方法を知る
	3	通学路での避難行動を考える（本時）
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国土地理院の地理院地図を活用し、本校の立地や通学路の地理的な特徴を踏まえ、学校以外で大地震に見舞われた際の避難行動について自分事として具体的に考える。 ・本時で考えた避難行動を、家族や地域の方へ伝える方法について考える。 	
防災の視点	(B) 地理院地図やハザードマップを活用し、学校以外での避難行動を再考する。	
あおり おまもりノート の活用	<p>p 14 地震から身を守ろう（外にいるとき） 「外にいるとき編 学校の行き帰りで、地震が起こったら！」</p> <p>p 16～17 津波から身を守ろう</p>	
ICTの活用	<p>i P a d〔地理院地図の活用、ハザードマップポータルサイトの活用〕 プロジェクター〔i P a d画像の投影、あおりおまもりノートの解説〕</p>	

本時の展開（3／3）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 津波災害を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の映像を視聴し津波災害を認知させる。 ・災害はいつ起こるかわからないことを再認識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の映像〔津波映像（石巻ガス提供）〕 ・生徒が学校に滞在する時間の割合のグラフ
2 通学路を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の地理的な特徴を捉えさせる。 ・通学路を地理院地図上で捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理院地図
3 通学路での避難行動を具体的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路で大きな地震に見舞われた際の避難行動を具体的に考える。 ・一人で考えた後、同じ町内会のグループで意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あおりおまもりノート p14 ・あおりおまもりノート p16～17
4 通学路からの避難経路を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会ごとに、地理院地図上で距離や標高を参考にしながら、より安全な避難経路を考える。 ・津波浸水の危険がない町内会での、共助の取組を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理院地図 ・ハザードマップポータルサイト ・三沢市津波ハザードマップ
5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会のグループごとに、話し合った通学路での避難行動と避難経路を発表し、共有する。 ・ワークシートに感想・疑問・家族や地域の方に伝えたいことなどを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・i Padの画像をスクリーンに投影 ・ワークシート

学習指導案

学 年	全学年（一斉）
教科名	総合的な学習の時間
単元名	「命を守るプロジェクト」＜防災＞避難にかかる時間を考えよう
指導計画 (全3時間)	1 具体的な条件のもとで、津波から逃れることはできるのか（本時）
	2 津波から逃れるために、移動速度や出発時間をどうすればよいのか
	3 自宅等から避難先までの移動時間で、津波から逃れることはできるのか
本時の目標	徒歩による避難により、津波から逃れることができるのか。
防災の視点	(B) 状況に応じた適切な避難行動を判断する視点を学ぶ
あおり おまもりノート の活用	p 5 地震・津波 p16～17 津波から身を守ろう p27 避難時の基本行動
ICTの活用	タブレット端末（地理院地図（電子国土 Web）、三沢市津波ハザードマップ）

本時の展開（1／3）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料																		
1 学校で大地震に遭遇した後に想定すべき避難行動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 大地震後には津波が来ることを押さえさせ、学校から避難する必要があることに気付かせる。 学校周辺の地理的条件を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> あおりおまもりノート p5、p16～17 地理院地図（学校と海岸線の近さ（約800m）を確認） 																		
2 学校を徒歩で出発し、10分後津波が海岸線から上陸した場合、浸水想定域の先まで津波から逃れることはできるのか。	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解く上で、徒歩と津波の速度、学校から浸水想定域の先までの距離について、提示資料で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示資料（徒歩は時速3.6km、津波は時速30km、学校から浸水想定域外までは1km） 																		
3 課題解決及び発表	<ul style="list-style-type: none"> 分からない生徒には、表を利用する方法を提示し、徒歩と津波の移動距離について具体的に考えさせる。 結論を出した生徒は、どの地点で津波に追いつかれるのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 提示資料（表を利用する方法例） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>1</td> <td>…</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>徒歩</td> <td>800</td> <td>860</td> <td>…</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>津波</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>…</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		0	1	…	10	11	徒歩	800	860	…			津波	0	0	…		
	0	1	…	10	11															
徒歩	800	860	…																	
津波	0	0	…																	
4 どうすれば、津波から逃れられるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 移動速度を速くすることや出発時間を早くすることにより、避難できる可能性が高まることに気付かせる。 現在学校で行われている訓練における避難時間を確認し、訓練の意義を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三沢市津波ハザードマップ【全市版】 提示資料（実際の避難訓練時の計測時間や写真） 																		
5 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で学んだことや気付いたことや疑問点について整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 																		

学習指導案

学 年	全学年（一斉）＊初年度 ・ 1学年 ＊2年目以降	
教科名	総合的な学習の時間	
単元名	津波対応避難訓練・地域学校協働防災訓練の準備をしよう	
指導計画 (全5時間)	1	令和元年度地域協働防災訓練の振り返り
	2	日本海溝型地震の津波浸水想定を知り、津波対応避難を見直す（本時）
	3	東日本大震災・津波について知り、防災・減災への意識を高める
	4	避難所で中学生ができること
	5	津波対応避難訓練・地域学校協働防災訓練に向けて
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国・本校学区の日本海溝型地震の津波浸水想定を知る。 ・日本海溝型地震の津波浸水想定を自分事としてとらえ、より早く避難を開始するための対策を具体的に考える。 ・あおりおまもりノートの意義を知る。 	
防災の視点	(A) 新津波浸水想定に対応できる避難行動を再考する	
あおりおまもりノートの活用	<p>p 2～3 青森県の魅力・中学生・高校生の皆さんへ</p> <p>p 4～5 青森県で起こりうる災害を知る「地震・津波」</p>	
ICTの活用	プロジェクター〔本校学区のドローン映像の視聴、あおりおまもりノートの解説〕	

本時の展開（2／5）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 青森県の魅力を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の映像から、学校、海、避難経路の位置関係をつかませるとともに、魅力を再認識させる。 ・青森県の魅力を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学区のドローン映像〔太平洋から学区を望む〕
2 日本海溝型地震の津波浸水想定を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県で起こりうる地震を知らせる。 ・新津波浸水予測図から、学区の想定について知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あおりおまもりノート p 2～3 ・あおりおまもりノート p 4～5 ・平成25年作成 三沢市ハザードマップ ・令和3年発表日本海溝型地震の津波浸水予測図
3 より早く避難をするための対策を具体的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの避難訓練の様子を振り返り、平時からできることを含め、より早く避難をするための対策を考えさせる。 ・考えた対策を書いた付箋紙をホワイトボードの対応場面写真の下に貼らせる。（一人一枚以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の地域学校協働防災訓練の記録映像 ・地震発生から学校出発までの場面写真
4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・貼られた付箋紙の一部を共有する。 ・ワークシートに感想・疑問などを記入させる。 ・学区周辺の映像を再度視聴。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・学区のドローン映像〔学校から太平洋側を望む〕

学習指導案

学 年	2 学年	
教科名	特別活動	
単元名	私は大丈夫～そんな気持ちはないですか	
指導計画 (全3時間)	1	様々な状況の人が集まる避難所で限られた食料を分けるために必要なことを考えよう
	2	非常時の持ち出し品や必要な備蓄を確認し、準備をしよう (本時)
	3	冬季対応津波避難訓練
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの防災への意識を再確認する。 ・災害時に備えるために必要な備蓄について学ぶ。 ・災害時に必要な持ち出し品について考え、自分たちが使用している防災リュックの中身を見直す。 	
防災の視点	(B) 道徳教材、青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」、防災グッズ特集のニュース映像などを参考に、学校での防災リュックの中身を再考する	
あおりおまもりノート の活用	p 40 非常時の持ち出し品・日頃の備蓄	
ICTの活用	TV モニター【意見の共有、ニュース映像の視聴、あおりおまもりノート・青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」の解説】	

本時の展開 (2 / 3)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 私たちの安全をおびやかすものを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例を考え、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズ特集のニュース映像
2 実際の災害から考える。(漫画やアンケートの結果から考える)	<ul style="list-style-type: none"> ・漫画を読み感想を発表させる。 ・教科書 p179 の2つのアンケート結果から、防災への意識が低いことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漫画 ・【私は大丈夫～そんな気持ちはないですか】道徳教科書 p179
3 災害時に備えるために必要な備蓄について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭の災害に備えての備蓄の状況を共有する。 ・必要と考えられる備蓄品をあおりおまもりノートに記入させ防災ハンドブックで正しい知識を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あおりおまもりノート p40 ・青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」p94～97
4 学校からの避難の際、災害に備えるために必要な持ち出し品について具体的に考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災リュックの中身として必要と考えられる物をあおりおまもりノートに記入させ、共有する。 ・本校の防災リュックに追加が必要な物品がないか、容量を踏まえ考えさせる。 ・今回の内容を全校に提案し、冬季津波対応避難訓練に生かすことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あおりおまもりノート p40 ・青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」p98～99
5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに感想・疑問などを記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

学習指導案

学 年	3 学年
教科名	外国語（英語）
単元名	通学路での避難行動を考えよう
指導計画 （全 1 時間）	1 Let's Talk 2 町中での手助け！「災害時に外国人を助ける」（本時）
本時の目標	災害時に、困っている人の手助けを申し出ることができるようになる。
防災の視点	(B) 地理院地図やハザードマップを活用し、学校以外での避難行動を再考する
あおもり おまもりノート の活用	p14 地震から身を守ろう（外にいるとき） 外にいるとき編「学校の行き帰りで、地震が起こったら！」 p16～17 津波から身を守ろう
I C T の活用	i P a d（動画の撮影）、TV モニター（i P a d 動画の共有）

本時の展開（1 / 1）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 災害時に困っている外国人の存在を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 日本を訪れる外国人の数、日本での災害発生回数のグラフの説明を英語で行い、意味を考えさせる。 災害時における共助の精神を生徒から引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に困っている外国人の写真 日本を訪れる外国人の数と日本での災害発生回数のグラフ
2 言語活動（1）	<ul style="list-style-type: none"> 日本人役と災害時に困っている外国人役になり、ペアで会話をさせる。 外国人役は、困っていること、してほしいことが伝わるように話させる。 日本人役は、思いやりをもった言葉がけをさせる。 会話の動画を撮影させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に困る場面・状況のカード i P a d
3 言語活動（1）の発表	<ul style="list-style-type: none"> 動画を全体でシェアし、使うべき表現と改善点を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> i P a d T V モニター
4 言語活動（2）	<ul style="list-style-type: none"> 3の振り返りを参考に、言語活動（1）の発表を手直しし会話をさせる。 動画を撮影させる。 	<ul style="list-style-type: none"> i P a d
5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 撮影した動画を提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> i P a d

（会話例）「旅先で地震に遭い、避難所に行きたいが場所がわからない。」
 日本人：Excuse me. Can I help you?
 外国人：Yes. I don't know where I should go. I don't know where the local evacuation shelter is.
 日本人：Shall I take you there? I'm going there, too.
 外国人：Oh, thank you very much.

外部専門家の活用について

防災学習「三陸大津波記念碑見学」

- ねらい (1) 三沢市内の遺構「三陸大津波記念碑」を見学することで、三沢市における太平洋沖地震による津波について学ぶ。
 (2) 学区の地理的な特徴や、通学路等、学校外での避難行動を考えるため、地理院地図やハザードマップポータルサイトの活用について学ぶ。

日時 令和4年6月16日(木) 3・4校時 (10:30～12:20)

講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏 (他、大学生3名)

- 内容 (1) 三陸大津波記念碑を見学
 (2) 地理院地図、ハザードマップポータルサイトの活用についてタブレットを用いて学習



三沢三中 令和4年6月防災学習「三陸大津波記念碑見学」資料 弘前大学自然地理学研究室

①

②

③

④

⑤

自然災害発生時のタイプ (日時、2022)

- ・犠牲者発生 (併発型)
- ・出発中や避難中の発生 (巨浪襲撃)
- ・浸水被害を伴うことに特化 (併発型)

学習内容

⑥

防災学習「スクールD I G」による防災訓練の振り返り

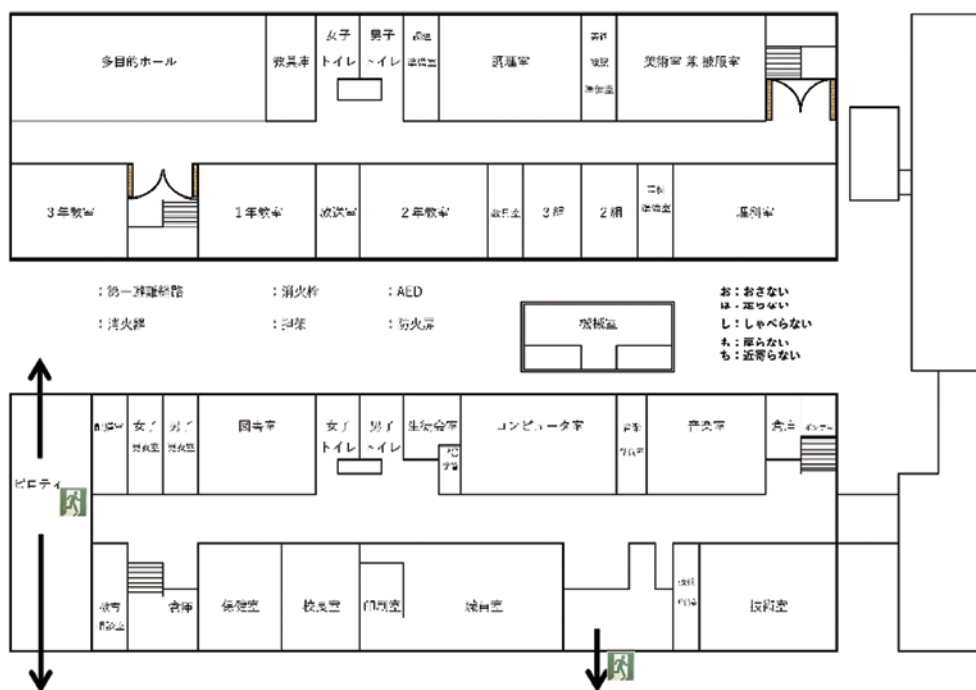
ねらい (1) 10月3日の避難訓練を振り返り、成果と課題を確認する。
 (2) 本校校舎内での避難行動や避難経路について、専門家のアドバイスをいただきながら見直す。

日時 令和4年12月2日(金) 3・4校時(10:30～12:20)

講師 日本赤十字社青森県支部 山野内 博見 氏

内容 「スクールD I G」 * Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム) の意
 (1) 学校内にはどのような危険が有り、どのような対策が必要か、生徒の視点で確認
 (2) 適切な避難方法について検討し、生徒同士で意見交換

校舎図



地域と連携した防災訓練について

三沢三中・おおぞら小 合同避難訓練

- 1 目的 (1) 地震発生および津波注意報または警報発令（または発令が予想される）時の避難の仕方を知る。
(2) 通報や指示、自己判断によって、落ち着いて、的確に安全に行動できる。
(3) 災害の恐ろしさを知り、その対策と防災・減災に関する自助・共助の意識を高める。
- 2 日時 令和4年10月3日（月）9：00～10：30
- 3 避難場所・避難方法 学校 →〔徒歩〕（道のり3.7km）→道の駅みさわ 斗南藩記念観光村
- 4 災害想定 (1) 午前9：00、緊急地震速報を受信
(2) M9.0、震度6弱の地震が発生。大津波警報が発令
(3) 放送機器は、地震発生後使用不能
(4) 避難経路の自動車通行不可
(5) 防災リュックを持ち、上履きのまま、小学生と共に徒歩での避難
(6) 避難後、地域学校協働防災訓練に参加。その後、引渡訓練



北部地区地域学校協働防災訓練

- 1 趣 旨 地域の懸案課題である津波災害からの避難について、小中合同の避難訓練を実施し、教職員の避難誘導體制及び手順等を確認するとともに、生徒に避難行動を体験させることにより、緊急災害時の行動を確認させ、安全確保への意識を高める。
- また、中学生が避難後の生活において地域住民に貢献できる存在となれるよう、地域と連携した防災体験学習を併せて実施する。この場面では、第二次避難場所での短期間の避難生活を想定し、避難所開設に伴う活動や避難生活に必要な技能などを、地域住民と交流し協働することを通して、自助・共助について学ぶ機会としたい。
- 2 目 的 (1) 防災に関する三沢北部地区各自主防災会間の協力・連携体制の構築
(2) 子どもの安全確保・地域防災に関する学校と地域の相互理解と協働体制づくり
(3) 児童生徒の避難行動の練度向上及び中学生の防災技能の習得
- 3 実施日時 令和4年10月3日(月) 10:30～15:00
- 4 連携体制 (1) 避難訓練 … ◇おおぞら小学校・第三中学校
(2) 防災訓練 … ◇北部地区町内会連絡協議会会長
◇第三中学校地域コーディネーター
◇北部地区12町内会長、各自主防災会(約60名)
◇先人記念館
◇道の駅みさわ斗南藩記念観光村
◇特別養護老人ホームひばり苑
◇消防団北部6分団(約30名)
◇第三中学校・第三中学校PTA
◇おおぞら小学校5・6年児童

《北部地区地域学校協働防災訓練実行委員会》

	役 職	所 属 等
1	委 員 長	北部地区町内会連絡協議会会長 谷地頭町内会長
2	副委員長	地域コーディネーター
3	副委員長	三沢市立第三中学校校長
4	副委員長	三沢市立おおぞら小学校校長
5	委 員	北部地区町内会連絡協議会副会長 細谷町内会長
6	委 員	北部地区町内会連絡協議会事務局 八幡町内会長
7	委 員	塩釜町内会長
8	委 員	根井町内会長
9	委 員	六川目町内会長
10	委 員	織笠町内会長
11	委 員	朝日町内会長
12	委 員	高野沢町内会長
13	委 員	富崎町内会長
14	委 員	越下町内会長
15	委 員	新森町内会長
16	委 員	三沢市観光協会職員 三沢市消防団本部分団長
17	委 員	グループホームひばり苑代表
18	監 事	第三中学校PTA会長
19	監 事	おおぞら小学校PTA 根井消防クラブ
20	参 与	三沢市総務部防災管理課
21	事 務 局	第三中学校教頭
22	事 務 局	第三中学校安全指導担当
23	事 務 局	//

5 日 程

【第1部 小中合同避難訓練 学校～道の駅みさわ 斗南藩記念観光村】		
時 刻	おおぞら小・第三中学校	自主防災会・消防団
8:30	1校時(学活)防災事前指導	
9:00 9:03	<p>◆巨大地震発生 → 緊急避難行動①(頭部保護の行動)</p> <p>◆揺れ収束 → 緊急避難行動②(津波避難)</p>	
		
9:06	◇徒歩で指定避難場所へ	◇それぞれ指定避難場所へ
		
10:10	道の駅みさわ 斗南藩記念観光村に到着避難(緊急避難行動完了)	指定避難場所に到着・点呼
		
10:15	<p>避難(緊急避難行動)完了</p> <p>全体指導(一時避難について)</p> <p>◇小中合同引渡集合訓練(学年・地区)</p> <p>◇おおぞら小1～4年生は帰校</p>	
		

【第2部 地域学校協働防災訓練 道の駅みさわ斗南藩記念観光村】

10:30

- ◆全員集合・整列（小・中学生…学年毎 自主防災会…地区毎）
- ◆開始式
 - 1 訓練開始の挨拶（実行委員長）
 - 2 訓練上の諸注意（地域コーディネーター）
 - 3 諸連絡

10:40

- 地域学校協働防災訓練開始（グループに分かれ各種活動）
- ①統括指揮訓練 ②設営訓練 ③受付誘導訓練



11:10

- ④各訓練（消火訓練、搬送法、段ボールベッド・簡易トイレ体験）



12:30

- ⑤給仕活動・昼食



- ◇後片付け（ゴミ、テント、洗い物、積み込みなど）

13:50

- ◆終了式
 - 1 全体講評（地域コーディネーター）
 - 2 訓練終了の挨拶（中学校校長）
 - 3 諸連絡

- ◇おおぞら小5・6年生は帰校

自主防災会・消防団解散

【第3部 引き渡し訓練 道の駅みさわ斗南藩記念観光村】

14:00

引き渡し開始



15:00

引き渡し終了

令和4年9月吉日

三沢市北部地区 地域学校協働防災訓練

～ 実施のお知らせ ～



地域住民・保護者・関係者の皆様へ

この度、下記の日程で、三沢市北部地区の12町内会、ひばり苑、おおぞら小学校、第三中学校が連携・協働して行う、三沢市北部地区地域学校協働防災訓練を実施することになりました。

これは、令和元年度以来、2回目の開催です。地域共通の防災課題である津波災害を想定し、緊急災害時の避難行動を確認するとともに、避難後の活動について、各自主防災会の連携・協力体制をつくることが目的です。また、小中学生も防災体験学習として一緒に活動することによって、地域と学校の連携も深めたいと考えております。

つきましては、地域住民、保護者、関係者の皆様にはぜひご参加いただき、北部地区の地域防災力の向上にご協力下さいますよう、よろしくお願いいたします。

三沢市北部地区町内会連絡協議会会長

三沢市立第三中学校地域コーディネーター

三沢市立第三中学校PTA会長

三沢市立第三中学校校長

北部地区地域学校協働防災訓練

日時 令和4年10月3日(月) 10時30分から 小雨決行

場所 道の駅みさわ斗南藩記念観光村

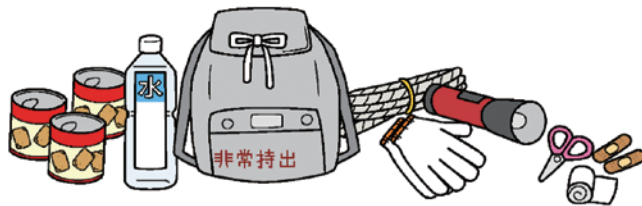
日程
9:00 地震発生・大津波警報発令(想定)
9:03 各自で指定緊急避難場所へ避難開始(緊急避難行動)
9:30 緊急避難行動完了

{ 10:30 道の駅みさわに集合
10:40 地域学校協働防災訓練開始
※各自主防災会と中学生がグループで訓練項目実施
12:30 炊き出し完成・昼食
※アルファ米などを全員に配給します。
13:30 片付け・後始末
14:00 地域学校協働防災訓練終了
※各自主防災会ごとに解散

14:00 中学生は引渡訓練実施

持ち物 雨具、防寒具、タオル、軍手、ぼうし、その他(役立ちそうな物)

その他 ◇訓練項目等については、裏面をご覧ください。



令和4年度10月3日 北部地区地域学校協働防災訓練 訓練項目・活動担当一覧

訓練項目	おもな役割	活動担当	おおぞら小5・6年 第三中学校
①総括指揮訓練	<ul style="list-style-type: none"> 全体指揮 情報集約、各活動の調整 各班への連絡、作業補助 	会長 コーディネーター	小学生：7名 中学生：10名
②設営訓練	<ul style="list-style-type: none"> 避難者テント設営 避難者テントの区分け 防災用品エリア設営 (・段ボールベッド設置) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎織笠自主防災会 ◎塩釜自主防災会 ◎新森自主防災会 	小学生：13名 中学生：19名
③受付誘導訓練	<ul style="list-style-type: none"> 避難者名簿の作成 避難者の誘導 避難者の状況確認 	<ul style="list-style-type: none"> ◎六川目自主防災会 ◎細谷町内会 	小学生：7名 中学生：10名
④その他訓練	<ul style="list-style-type: none"> 消火訓練 搬送法 展示(段ボールベッド・簡易トイレ) 	*原則として参加者全員	小学生：27名 中学生：39名
⑤炊き出し訓練	<ul style="list-style-type: none"> 炊き出し用具の確保 炊き出し(汁物) 配給(小・中学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎根井自主防災会 ◎朝日自主防災会 ◎谷地頭自主防災会 ◎北三沢自主防災会 (八幡・富崎・越下) ◎三中PTA 	小学生：27名 中学生：39名 *配給を担当
⑥要配慮者訓練	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者の誘導、サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ◎高野沢自主防災会 ◎ひばり苑 	

★荒天時★

(開始時刻、場所、内容が変更になります。当日朝7:30に決定します。)

日時 令和4年10月3日(月) 10時30分から

場所 三沢市立おおぞら小学校 体育館、三沢市立第三中学校 調理室

内容 ①統括指揮訓練、②設営訓練、③受付誘導訓練、⑤炊き出し訓練のほか、避難所運営ゲームや段ボールベッド体験、搬送法など



お気軽にご参加下さい!
一緒に地域防災を考えましょう。
ご協力をよろしくお願いします。

地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）

協議会出席者

所 属	役 職	備 考
三沢市立第三中学校	校長、教頭はじめ全教員、PTA会長、 学校評議員、地域コーディネーター	研究指定校
周辺の小・中学校	校長、または安全担当等	研究指定校の周辺校
地域学校協働連絡協議会（北浜会）	顧問	地域関係者
三沢市教育委員会	教育委員、指導主事等	所管の教育委員会
三沢市 総務部防災管理課 消防本部予防課・警防課 消防団本部・消防団（6分団）	防災危機管理専門員等 課長補佐、係長 消防団長、分団長	所管の防災担当部局 北部地区地域学校協働 防災訓練実行委員会
町内会（12）	会長	地域関係者 北部地区地域学校協働 防災訓練実行委員会
関係団体・施設 道の駅みさわ 斗南藩記念観光村 先人記念館 グループホームひばり苑	駅長 館長 管理者	防災訓練協力団体 北部地区地域学校協働 防災訓練実行委員会
弘前大学教育学部	教授	外部有識者
日本赤十字社青森県支部	事業推進課長	外部専門家
青森県防災士会	青森支部長	外部専門家
上北教育事務所	指導主事	事務局
青森県教育庁スポーツ健康課	指導主事	事務局

第1回検討協議会

日 時：令和4年6月8日（月）14：00～16：00

場 所：三沢市立第三中学校（おおぞら小学校体育館）

内 容：(1) 事業説明（青森県教育庁スポーツ健康課）

(2) 指定校の取組説明（三沢市立第三中学校）

(3) 協議・情報交換

「地域学校協働防災訓練（10月3日実施）について」

- ・当日の地域関係者の協力体制について
- ・各町内会の防災訓練の役割担当について（沿岸部／内陸部）
- ・三沢市防災担当部局による支援について
- ・外部専門家からの助言



第2回検討協議会

日 時：令和4年8月22日（月）14：00～16：00

場 所：三沢市立第三中学校（おおぞら小学校体育館）

内 容：(1) 津波対応避難訓練について

- ・小中合同避難の実施方法について（隊列、避難経路、交通安全など）

(2) 地域学校協働防災訓練について

- ・実行委員会による概要説明

- ・「教師主導」から「地域主導」への転換

(3) 協議

「地域学校協働防災訓練（10月3日実施）について」

- ・防災訓練のねらい（学校と地域のニーズの擦り合わせ）
- ・必要物品（担当者、数量、期日等）
- ・町内会の協力体制（災害発生時の共通理解）

第3回検討協議会

日時：令和4年12月22日（木）14：00～16：00

場所：三沢市立第三中学校（おおぞら小学校体育館）

内容：(1) これまでの防災学習の取組について

(2) 講義

「三沢市の地形・地質の特徴を知り、自然災害に備える」

弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏

(3) 協議

「地域学校協働防災訓練（10月3日実施）の振り返り」

（町内会長からのコメント）

- ・炊き出しを行う状況となった場合、いろいろな地域の方が集まることから、総責任者（指示を出す人）が必要だと感じた。
- ・谷地頭地区は災害の場合、受け入れる側となるため、受け入れ態勢についても災害を想定して話し合いを進めている。
- ・ハザードマップを参考に命を守るための場所を知ることやここまでだったら逃げられると知っていることが大事。（自身の）孫（三沢三中在学）の地震が起きた際の様子から学校の防災教育が行き届いていると感じた。子どもたちの意識が変わってきていることに感謝している。
- ・（訓練の時期について）訓練は多くの人に参加できるような時期を設定してほしい。農家の人が多い地域なので、農家の作付けの時期を外して、より多くの人に参加できるようにしてほしい。

（協力機関からのコメント）

- ・学区が広い地域でこのような成果が得られたことに深く感謝している。自主的に動ける三中の子ども達の力が生かされた事業だと感じた。また、地域に対して何を備えればよいのか気付きを与えてくれた訓練だった。地域はこの気付きを生かして準備していくべきである。学校だけではなく、市・地域の人が必要。この地区は、地域の力が厚い地区だと思っている。
- ・（炊き出しの役割分担の意見に対して）学校が行う訓練と地域の役割については別に考えてほしい。
- ・三沢三中の防災学習は、根拠をもった学びをしており、地域に根ざした防災教育を行ってくださった学校に感謝している。



令和3年度 防災学習・避難訓練等の記録

≪主な取組≫

- 4月中旬：春の火災予防運動の啓発
- 4/23(金)：第1回避難訓練〔火災〕
避難行動オリエンテーション
市防災管理課の方の講話 ★外部講師
- 4/27(火)：引渡時の集合訓練・個人持出袋整備
- 5/17(月)：5月防災学習「安全だよりの読み合わせ」
- 6/2(水)：小中合同 引渡時の集合訓練
- 6/11(金)：第1回検討協議会 兼 研修会
小岩教授による講演 ★外部講師
- 6/17(木)：6月防災学習「訓練の記録動画視聴」
- 7/19(月)・20(火)：7月防災学習「新浸水想定・避難をスムーズにするための工夫」
★あおもりおまもりノート
- 7/26(月)：教職員研修〔HUG～避難所運営ゲーム〕
- 7/28(水)～30(金)：校長、担当教員の防災教育先進地への派遣
- 8/18(水)：8月防災学習「垂直避難訓練・Disaster Scope・防災講話」
★先進地視察報告
- 8/20(金)：第2回検討協議会
- 8/26(木)：9/1事前指導（全校、6校時）★外部講師
（日本赤十字社による講演・演習→1月に延期）
- 8/30(月)：9/1事前指導（3学年、5校時）
- 9/1(水)：第2回避難訓練〔大地震・津波〕
地域学校協働防災訓練★地域との連携
- 9/3(金)：校内研修「特別活動」（テーマ：防災）
- 9/17(金)：9月防災訓練「ショート避難訓練～不審者」
- 9/22(水)：校内研修「各様式作成」★事例集作成
- 10月中旬：秋の火災予防運動の啓発
- 10/15(金)：10月防災学習「KYT～危険予知トレーニング～」★外部講師
- 11/14(日)：三中祭「防災消防クラブ活動報告」10分間
- 11/17(水)：11月防災学習「9/1振り返り」★令和4年度
- 12/17(金)：12月防災学習「ショート避難訓練～J-アラート」
- 1/17(月)：1月防災学習
（日本赤十字社による講演・演習）★外部講師
- 1/26(水)：第3回避難訓練〔地震・火災〕
- 2/2(水)：第3回検討協議会
- 2/17(木)：2月防災学習「冬季津波対応避難訓練」
- 3/17(木)：3月防災学習「あんぜんだよりの読み合わせ」
今年度の振り返りと来年度の見通し

垂直避難



Disaster Scope



非常用トランシーバーの設置



KYT～危険予知トレーニング～



≪防災学習≫

- ◎毎月17日 ※1/17(月)「ボランティアと防災の日」
- ◎防災消防クラブの活用
- ◎ボランティア・サービス(VS)の導入

令和4年度 防災学習・避難訓練等の記録

≪主な取組≫

- 4/ 8 (金)：防災消防クラブオリエンテーション (①)
 4/15 (金)：春の火災予防運動の啓発
 4/21 (木)：避難行動オリエンテーション (②)
 4/22 (金)：第1回避難訓練〔火災〕・持出袋整備
 5/17 (火)：5月防災学習「あんぜんだより」読み合わせ
 6/ 8 (水)：第1回検討協議会
 6/16 (木)：6月防災学習「三陸大津波記念碑見学」(③)★外部講師
 6/22 (水)：6月防災学習「国土地理院地図活用」
 7/11 (月)：小中合同 引渡時の集合訓練
 7/19 (火)：7月防災学習「走って逃げる津波避難」(④)
 7 月 下 旬：職員の防災教育先進地への派遣
 8/18 (木)：8月防災学習「車いす体験」★外部講師
 「垂直避難訓練」(⑤)
 8/22 (月)：第2回検討協議会
 9/ 1 (木)：防災教育プログラム「災害遺構」★外部講師
 9/28 (水)：10/3 事前指導①「消防団とは」(⑥)★外部講師
 9/30 (金)：10/3 事前指導②「地域学校協働防災訓練」
 10/ 3 (月)：第2回避難訓練〔大地震・津波〕(ToDo カード活用)
 地域学校協働防災訓練 ★地域との連携 引渡訓練
 10/14 (金)：避難行動オリエンテーション②
 10/17 (月)：10月防災学習「ショート訓練 (不審者侵入)」
 10/23 (日)：三中祭「防災消防クラブ活動報告」
 「秋の火災予防運動の啓発」
 12/ 2 (金)：11月防災学習「10/3 振り返り」★外部講師
 12/20 (火)：12月防災学習「ショート訓練 (J-アラート)」
 12/22 (木)：第3回検討協議会 兼 研修会
 小岩教授による講演 ★外部講師
 1/12 (木)：第3回避難訓練〔冬季津波〕
 1/17 (火)：1月防災学習「防災とボランティアの日」
 1/25 (水)：第4回避難訓練〔地震・火災〕
 2/17 (金)：2月防災学習「今年度の防災学習振り返り」
 3/17 (金)：3月防災学習「来年度に向けて
 ～3年生からのメッセージ」



1



2



3



4



5



6

≪防災学習≫

- ◎毎月17日 ※1/17 (火)「ボランティアと防災の日」
- ◎防災消防クラブの活用
- ◎ボランタリー・サービス (V S) の導入
- ◎学区町内会で行われる防災訓練への参加
- ◎部活動ごとの避難行動・避難経路確認
- ◎冬季の津波対応避難訓練
- ◎不法投棄と防災・減災

令和5年度 防災学習・避難訓練等の計画

≪主な取組≫

- 4月 ㊦防災消防クラブオリエンテーション(新入生ガイダンス)
㊦春の火災予防運動の啓発
㊦避難行動オリエンテーション
行第1回避難訓練(火災)
- 5月 総5月防災学習「垂直避難訓練・車いす体験」
㊦小中合同 引渡時の集合訓練
- 6月 第1回実行委員会
総6月防災学習「教科等横断的に津波を学ぶ①」
- 7月 総7月防災学習「教科等横断的に津波を学ぶ②」
- 8月 総8月防災学習「駆け足での津波対応避難訓練」
第2回実行委員会
㊦避難行動オリエンテーション②
- 9月 総9月防災学習「三陸大津波記念碑見学」
行事前指導
- 10月 行第2回避難訓練(大地震・津波)、地域学校協働防災訓練
- 10月 防災学習「ショート避難訓練」
行三中祭「防災消防クラブ活動報告」
㊦秋の火災予防運動の啓発
- 11月 総11月防災学習「避難訓練②振り返り」
- 12月 12月防災学習「ショート避難訓練」
- 1月 行第3回避難訓練「冬季津波対応避難訓練」
1月防災学習「ボランティアと防災の日」
行第4回避難訓練(地震・火災)
- 2月 総2月防災学習「HUG～避難所運営ゲーム」
- 3月 3月防災学習「来年度に向けて」

≪防災学習≫

- 毎月17日 ※1/17(水)「ボランティアと防災の日」
- 防災消防クラブの活用
- ボランティア・サービス(VS)の導入
- 学区町内会で行われる防災訓練への参加
- 部活動ごとの避難行動・避難経路確認
- 冬季の津波対応避難訓練
- 不法投棄と防災・減災

行 行事：避難訓練年間4回・事前指導2時間

総 総合的な学習の時間：各学年年間12時間

㊦ 防災消防クラブとしての活動：随時(昼の放送、生徒朝会など)

検討協議会 → 地域学校協働防災訓練実行委員会(年2回の予定)